

## 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

**目的** 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

**成果** 1. デジタル画像の形成方法の研究開発

ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、東京国立博物館所蔵の平安仏画、鏡神社所蔵《水月観音図》など、多数の文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、一部については成果報告書を編纂した。

イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し、『サントリー美術館所蔵 重要文化財 四季花鳥図屏風に関する光学調査成果報告』及びサントリー美術館所蔵《泰西王侯騎馬図屏風》に関する調査研究成果を所内資料閲覧室で公開した。また、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻三・巻四 光学調査報告書』を2017(平成29)年9月30日付で刊行した。

2. 文化財情報基盤の整備・充実

ア) ネットワーク機器及びソフトウェアに対し保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、2回の「情報システム部会研修会」を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティに関する業務については、各部・センターの情報システム部会員との連携により実施している。

イ) 大容量ストレージシステムDataCoreに対し、2018(平成30)年3月にストレージサーバを追加、容量を増強するとともにメモリを増設して、パフォーマンスを向上させた。

3. 文化財情報に関する調査研究

これまで構築してきたウェブデータベース及びその構築過程についてまとめ、構築による情報発信力についての効果に関する調査を行い、成果を論文で発表した。

4. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。平成29年度は、4件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。

イ) 2017(平成29)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2016』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

## ウェブサイトアクセスランキング

|   |                   |    |                  |
|---|-------------------|----|------------------|
| 1 | 東京文化財研究所トップ       | 6  | 久野健資料            |
| 2 | 『日本美術年鑑』所載物故者記事   | 7  | 黒田清輝日記トップページ     |
| 3 | ガラス乾板データベース       | 8  | 『美術画報』所載図版データベース |
| 4 | 『保存科学』            | 9  | フィルム原板データベース     |
| 5 | 『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報 | 10 | 黒田清輝日記(日付別)      |

(平成29年度 上位10位まで)

## ウェブサイトの主な更新履歴

| 年月日      | 更新内容   | 関係部局         |
|----------|--|--------------|
| 17.4.21  | 畑正吉フランス留学期写真資料 公開  | 文化財情報資料部     |
| 17.5.9   | 「文化財収蔵施設・文書館等におけるカビの制御」ポスター 公開   | 保存科学研究センター   |
| 17.6.5   | 共催ワークショップ「青花紙と友禅染」開催   | 無形文化遺産部      |
| 17.6.5   | 『平成28年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業』刊行   | 文化遺産国際協力センター |
| 17.6.15  | 独立行政法人東京文化財研究所・国立大学法人佐賀大学共催「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結キックオフ集会「日本における染織文化財の保存」開催  | 無形文化遺産部      |
| 17.6.23  | 『平成28年度 文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流） ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査 事業報告書』PDF 公開   | 文化遺産国際協力センター |
| 17.6.27  | 山下菊二関連資料 公開  | 文化財情報資料部     |
| 17.7.3   | The Conference on the Preservation of Historic Settlements in the Kathmandu Valley on 30th November, 2016 PDF 公開   | 文化遺産国際協力センター |
| 17.7.3   | 2015 Project for International Contribution to Cultural Heritage Protection / Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal / Structural Survey of Historic buildings PDF 公開 | 文化遺産国際協力センター |
| 17.7.3   | 2015 Project for International Contribution to Cultural Heritage Protection / Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal / Survey of Historic Settlement PDF 公開           | 文化遺産国際協力センター |
| 17.7.31  | 『公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」予稿集増補版』PDF 公開   | 文化財情報資料部     |
| 17.10.6  | 第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」開催  | 文化財情報資料部     |
| 17.11.7  | キャスリーン・サロモン氏（ゲッティ研究所副所長）講演会「日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催   | 文化財情報資料部     |
| 17.11.24 | 塩谷純 文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長が第29回倫雅美術奨励賞を受賞  | 文化財情報資料部     |
| 17.12.15 | "Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 2018" 参加者募集   | 文化遺産国際協力センター |
| 17.12.20 | 「東南アジア古代都市・建築研究会」開催  | 文化遺産国際協力センター |
| 18.1.16  | 国際研修「紙の保存と修復2018」参加者募集   | 文化遺産国際協力センター |
| 18.1.23  | 研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」開催   | 文化財情報資料部     |
| 18.1.24  | 「第一回 無形文化遺産映像記録作成研究会」開催  | 無形文化遺産部      |
| 18.2.15  | 「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供  | 文化財情報資料部     |

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・小山田智寛「WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果―「物故者記事」「美術界年史(彙報)」を事例として―」『美術研究』424 pp.21-28 18.3

刊行物・『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻三・巻四 光学調査報告書』 17.9

研究組織 ○二神葉子、津田徹英、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、竹花真由子、谷口每子、芦立麻衣子、安岡みのり、丸山礼(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長)

各部署情報システム部会員：中村恵、大島大輔(以上、研究支援推進部)、津田徹英(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、吉田直人(保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長)

各部署年報部会員：安川政和、林昌宏(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部)、北河大次郎(保存科学研究センター)、友田正彦(文化遺産国際協力センター)

## 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

**目的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

**成果** 1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催

全所的文化財情報を発信するため 概ね4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2017(平成29)年5月31日、6月29日、9月22日、2018(平成30)年3月23日)。「研究情報の保存・開示に関する基準」についての所内ガイドラインを策定・実施して、適切な研究データ管理を推進すると同時に、成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。

2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進した。

3. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充

当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料を、資料閲覧室で視聴に対応するよう環境を整えるとともに、『音盤目録』7巻分の全文PDFを公開した。

4. 明治・大正期刊行の雑誌類等資料のデジタル化推進

・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の『売立目録』について、掲載内容が画像ともども検索できるシステム改良を行い、併行して掲載内容のデータ入力を進めた。

・当研究所の所蔵する近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。

5. 研究成果の公開・美術資料のデータ化

サントリー美術館所蔵「四季花鳥図屏風」「泰西王侯騎馬図屏風」、徳川美術館所蔵「源氏物語絵巻」に関するデジタルコンテンツ等を作成し、所内公開を行った。



サントリー美術館所蔵・四季花鳥図屏風のデジタルコンテンツ トップ画面

**閲覧室事業の運営**

1. 年度内資料受け入れ数

和漢書3,066件、洋書121件、展覧会図録・報告書等1,374件、雑誌3,846件(合計8,407件)

2. 年度内閲覧室利用状況

公開日総数137日・年間利用者合計931人

**論文**・佐野千絵、橘川英規「電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討」『保存科学』57 pp.145-157 18.3

**研究組織** ○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)

## 平成29年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果
1. 2017(平成29)年11月2日、3日の2日間にわたり、専門家はもとよりひろく一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
    - ・江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）「海を渡った日本絵画—ライブツィヒ民俗学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて」
    - ・山本聡美（共立女子大学教授）「穢土としての身体—日本中世絵画に描かれた病と死体—」
    - ・小野真由美（主任研究員）「写された枇杷図—狩野探幽と江戸の再生（リヴァイバル）」
    - ・馬淵美帆（神戸市外国語大学准教授）「田楽を作る歌仙—伊藤若冲の歌仙図について」
  2. 外部からの聴講者は11月2日116名、3日109名の参加を得た。  
11月2日の80名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ96.3%、11月3日の93名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ89.2%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰（以上、文化財情報資料部）

## 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (△03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8(ハイエイト)を中心に媒体変換を行い、DVD16枚を作成した。
  2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ約80時間分についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
  3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
  4. 無形文化遺産関連の映像資料69枚(作成DVD36枚・作成BD33枚)を所蔵資料として新たに登録した。
- 研究組織** ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、伊藤純、橋本かおる、半戸文(以上、無形文化遺産部)

## 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

**目的** 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

**成果** 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、『世界遺産年報2018』所収「第41回世界遺産委員会ニュース」などを通じて成果の公表を行い、後述の世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。



第41回世界遺産委員会（ポーランド・クラクフ）

- ・2017（平成29）年7月2日～12日 第41回世界遺産委員会（クラクフ）
  - ・2017（平成29）年11月14日～15日 第21回世界遺産条約締約国総会（パリ）
  - ・2017（平成29）年11月29日～12月1日 第30回国際文化財保存修復研究センター総会（ローマ）
  - ・2017（平成29）年12月19日～21日 ACCU奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」等
2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
- ・2018（平成30）年2月6日 新潟県・佐渡市（世界遺産の推薦書作成作業についての調査）
  - ・2018（平成30）年3月26日～28日 長崎県長崎市、小値賀町、新上五島町（世界遺産の推薦書作成作業についての調査）
3. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』を刊行した。
4. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。

**報告**・二神葉子「第41回世界遺産委員会ニュース」（取材協力）『世界遺産年報2018』日本ユネスコ協会連盟編 18.1

**発表**・二神葉子「世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題」世界遺産研究協議会 18.1.18  
・境野飛鳥「第41回世界遺産委員会の報告」世界遺産研究協議会 18.1.18

**刊行物**・『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』東京文化財研究所 18.3  
・『世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○中山俊介、西和彦、境野飛鳥、増渕麻里耶、橋本広美、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）

## プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

### 無形文化遺産部

#### 無形民俗文化財研究協議会（①M02の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催している。第12回にあたる本年度は「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマとし、ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる現状と課題、各地域の取り組みなどについて報告・討議した。その成果は報告書として刊行した。

日 時：2017（平成29）年12月18日（月） 10:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：129名

テーマ：「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」

内 容：【基礎講座】今石みぎわ（無形文化遺産部）「ユネスコ無形文化遺産とその制度」

二神葉子（文化財情報資料部）「無形文化遺産を取り巻くユネスコと世界の状況」

朴原模（ユネスコアジア太平洋無形文化遺産国際情報・ネットワークセンター）

「韓国における無形文化遺産の保護とユネスコ無形文化遺産条約」

【事例報告】小濱学（三重県教育委員会）「アマサンミクス ～海女漁の技術の来し方行く末～」

米良勝也（みやざき文化振興課）・野添和洋（宮崎県教育庁文化財課）

「神楽のユネスコ無形文化遺産の登録に向けた取り組み」

【総合討議】上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：俵木悟（成城大学）

コーディネーター：久保田裕道・今石みぎわ（無形文化遺産部）

総合司会：飯島満（無形文化遺産部）

### 文化遺産国際協力センター

#### 世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」（④C01の一部として実施）

運営費交付金事業「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」で行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、初の試みとして研究協議会を開催した。今年度は、外部研究者を含む5名の発表を行い、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、諮問機関による推薦書の評価のプロセスの実際についてそれぞれの立場からの報告を通じて知る機会となった。

日 時：2018（平成30）年1月18日（木） 13:00～19:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：74名

発表者：境野飛鳥（文化遺産国際協力センター）「第41回世界遺産委員会の報告」

二神葉子（文化財情報資料部）「世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題」

岡寺未幾（福岡県）「『神宿の島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の登録までの道のり」

黒田乃生（筑波大学）「現地調査の体験」

河野俊之（九州大学）「組織としての諮問機関の役割」

質疑応答

## Iran-Japan on-site workshop on the conservation of wooden buildings and wooden objects (イランー日本 歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ) (③コ02の一部として実施)

エスファハーンを召集する各地の歴史的建造物には木材が使用され、その他にも木製品の文化財が少なくない。その多くに害虫（特にシロアリ）による被害が生じて保存上の大きな課題となっている。同国当局の要請を受け、イランにおける木造・木製文化財の適切な保存方法の検討に資するため、本ワークショップをイラン文化遺産・手工芸・観光庁 (ICHHTO) と共催した。

Iran-Japan on-site workshop on the conservation of wooden buildings and wooden objects  
(イランー日本 歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ)

日 時：2017 (平成29) 年4月17日 (月)～19日 (水) (うち18日は実地研修)

会 場：ダフシュティー邸、アーリー・カープー宮殿内ICHHTO支局事務所 (イラン・エスファハーン)

参加者：23名

講 演：・Masahiko TOMODA (友田正彦) (TNRIC/ 東京文化財研究所)

“Japanese Wooden Architecture and its Preservation” (「日本の木造建造物とその保存」)

・Yukio KOMINE (小峰幸夫) (TNRIC/ 東京文化財研究所)

“Species and its Characteristics of Insects that Harm to Cultural Properties in Japan” (「日本における文化財害虫の種類とその特徴」)、

“Management System for Insect Damage in Japan - Outline of Insect Damage at Rinnou-ji Temple in Nikko” (「日本における虫害管理体制：日光輪王寺における虫害対策を例に」)

・Kazushi KAWAGOE (川越和四) (Institute for Environmental Culture/ 環境文化創造研究所)

“Methods for Exterminating Termites in Japan” (「日本におけるシロアリ駆除対策」)

・Mehrdad HEJAZI (メフルダード・ヘジャーズイー) (University of Isfahan/ エスファハーン大学)

“Persian Wooden Buildings and Elements: Their Features and Maintenance Challenges” (「ペルシャ木造建造物と部材：その特徴と維持上の課題」)

・Javid IMANIYAN (ジャヴィド・イマニヤン) (ICHHTO)

“The Introduction of Wooden Buildings and Elements of Northern Iran (Gorgan) : Their Characteristics and Challenges” (「北部イラン(ゴルガン)の木造建築と部材の紹介：その特徴と課題」)

・Mohsen Mohammadi Achachluei (モーセン・モハンマディ・アカークレイ) (Art University, Isfahan/ エスファハーン芸術大学)

“Methods of Conservation and Restoration, and the Challenges of Insect Damage in Iran” (「保存修復手法とイランにおける虫害への挑戦」)

・Sepide POURMOHAMADI (セピデ・ポーモハマディ) (Institute of Insect Damage, Yazd/ ヤズド虫害研究所)

“Control of Subterranean Termites in Yazd Historical Buildings and Their Foods Preferences Survey on 8 Woods Samples that Applied in Historical Buildings” (「ヤズドの歴史的建造物における地中シロアリの制御と8点の木材試料に対する嗜好の調査」)

## セミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」(③コ02の一部として実施)

と最新のインダス文明研究」をNPO法人南アジア文化遺産センターと共催した。

シンデ博士はインドを代表する考古学者で、インド国内で数多くの発掘調査を行ってきた。現在は、モヘン



ジョ・ダロ遺跡を凌ぐインダス文明最大の都市遺跡ラキー・ガリー遺跡の発掘調査を継続されている。

今回のセミナーでは、「インドにおける文化遺産保護の現状」と「ラキー・ガリー遺跡の最新の発掘調査成果」に関して、発表いただいた。

日 時：2017(平成29)年9月26日(火) 15:00~17:00

会 場：東京文化財研究所 地下1階会議室

参加者：17名

講演者：ヴァサント・シンデ博士(インド・デカン大学、学長)

## 文化遺産国際協力センター

### 東南アジア古代都市・建築研究会 (③CO2の一部として実施)

アジアを代表する王都遺跡であるアンコールとバガンに焦点を当て、都市としての実像の解明、さらには各王宮の建築に関する調査研究の現状などについて報告・討議を行った。

第1日：東南アジアの古代都市を考える

日 時：2018(平成30)年1月19日(金) 9:00~17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：28名

講演：布野修司(日本大学生産工学部特任教授)「古代インドの都市理念」

ボブ・ハドソン(シドニー大学アジア学部特任研究員)「ミャンマー・バガン 11~14世紀の歴史と建築」

ジャック・ゴシエ(フランス極東学院アンコールトム考古調査隊長)

「カンボジア・アンコールトム城壁に関する都市史的考察」

討議：上記講演者+友田正彦(文化遺産国際協力センター)

第2日：アンコールおよびバガン王宮の建築を探る

日 時：2018(平成30)年1月20日(土) 9:30~17:00

会 場：東京国立博物館 黒田記念館講堂

参加者：31名

講演：ジャック・ゴシエ(フランス極東学院アンコールトム考古調査隊長)

「アンコールトム王宮の木造部材と構造物」

ボブ・ハドソン(シドニー大学アジア学部特任研究員)

「ミャンマー・バガンの巨大木造王宮 11世紀から今日まで」

上野邦一(奈良女子大学古代学学術研究センター国際親善教授)「宮殿に建つ掘立柱建物」

討議：上記講演者+友田正彦(文化遺産国際協力センター)

## 文化遺産国際協力センター

### ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ (③CO2の一部として実施)

ており、その建築年代の編年や変遷過程が不明であった。このため、その文化遺産としての価値の認識が不十分で、保存のための対策も未だ講じられていないのが現状である。

本ワークショップでは、東京文化財研究所・奈良文化財研究所・岡山理科大学がブータン内務文化省文化局遺産保存課と共同で行ってきた版築造建造物の建築調査の成果や、ブータンにおける文化遺産保護の法的枠組み、日本における状況等に関して情報共有するとともに、保存対象とすべき民家建築の具体的物件や今後の課題等について両国専門家の意見交換を行った。

Workshop on Conservation of Traditional Houses in Bhutan

(主催：東京文化財研究所、ブータン内務文化省文化局)

日 時：2018(平成30)年3月13日(火) 9:00~16:30

会 場：内務文化省文化局会議場(ブータン・ティンプー)

参加者：40名

講 演：・Nagtsho Dorji(ナクツォ・ドルジ)(ブータン内務文化省文化局遺産保存課)

“Background of the Cooperation Projects Collaborated between DOC and TNRICP”(「ブータン文化局と東京文化財研究所による協力事業の経緯」)

・Nobuo KAMEI(亀井伸雄)(東京文化財研究所)

“Conservation of Traditional Houses in Japan”(「日本における民家の保存」)

・Pema Wangchuk(ペマ・ワンチュク)(ブータン内務文化省遺産保存課)

“Current Legal and Administrative Framework for the Protection of Built Heritage in Bhutan”(「ブータンにおける建築遺産保護の法制度的枠組み」)

・Satoshi UNNO(海野聡)(奈良文化財研究所)

“Survey of Traditional Houses in Bhutan: Outline and Methodology”(「ブータン民家調査の内容と手法」)

・Tsuguto EZURA(江面嗣人)(岡山理科大学)

“Transformation Process of Traditional Houses in Bhutan”(「ブータン民家建築の変遷」)

・Masahiko TOMODA(友田正彦)(東京文化財研究所)

“Proposed Structures for Protection as Heritage Buildings”(「保存対象物件の提案」)

・Yeshi Samdrup(イエシ・サムドゥップ)(ブータン内務文化省遺産保存課)

“Recent Developments and Tendencies in the Designation and Conservation of Heritage Buildings in Bhutan”(「ブータンにおける遺産建造物の指定及び保存に関する最近の進展と動向」)

## 文化財情報資料部

### 総合研究会(シ)

内の研究者間で自由に討論する場である。平成29年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2017(平成29)年7月4日(火)  
発表者：石田真弥(保存科学研究センター)「煉瓦寸法の変遷について」
- ・第2回 2017(平成29)年10月3日(火)  
発表者：前原恵美(無形文化遺産部)「無形文化財保存技術に関する報告ー三味線を中心にー」
- ・第3回 2017(平成29)年11月7日(火)  
発表者：橘川英規(文化財情報資料部)「文化財アーカイブズ構築の取り組みー学術情報基盤を活用した研究資料の提供を中心に」
- ・第4回 2018(平成30)年3月6日(火)  
発表者：安倍雅史(文化遺産国際協力センター)「バハレーンにおける考古学調査と文化遺産保護」

## 文化財情報資料部研究会(シ)

の研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成29年度の開催内容は下記の通り。

- 4月25日(火) 山村みどり(日本学術振興会特別研究員)「『おいしい生活』第三次産業への転換期の日本の文化を考察する」
- 5月30日(火) 安永拓世(文化財情報資料部)「呉春筆『白梅図屏風』の史的位置」
- 6月27日(火) 田中純一郎(井原市立中美術館)「橋本雅邦の人物表現—東洋大学蔵『四聖像』をめぐって」
- 7月25日(火) 小勝禮子(実践女子大学ほか非常勤講師)「日本の美術史研究・美術展におけるジェンダー視点の導入と現状」  
コメンテーター：山村みどり(日本学術振興会特別研究員)
- 8月 7日(月) 綿田稔(文化庁美術学芸課)「橋本雄『雪舟入明再考』に寄せて」  
司会進行：島尾新(学習院大学)  
コメンテーター：伊藤幸司(九州大学)、米谷均(早稲田大学)、芳澤元(明星大学)、須田牧子(東京大学史料編纂所)、岡本真(東京大学史料編纂所)
- 9月 5日(火) 齋藤達也(文化財情報資料部客員研究員)「フランスにおける近代美術関連資料—美術館・図書館・アーカイヴ・インターネットリソースの紹介と活用例」  
コメンテーター：小泉順也(一橋大学)
- 9月22日(金) ピエール・テルジャニアン(メトロポリタン美術館)「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武器と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」
- 10月24日(火) 津田徹英(文化財情報資料部)「資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像」、佐藤有希子(日本学術振興会特別研究員)「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」
- 11月21日(火) 高田知仁(サイアム大学)「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」  
コメンテーター：原田あゆみ(九州国立博物館)
- 12月26日(火) 近松鴻二(文化財情報資料部客員研究員)「黒田清輝関係文書書翰類の解読」、田中淳(文化財情報資料部客員研究員)「岸田劉生における1913年から16年の『クラシツク』受容について」
- 1月30日(火) 小川絢子(国立国際美術館)「美術館における現代美術の保存と修復」、平諭一郎(東京藝術大学)「保存・修復の歴史において現代はそんなに特別か」
- 2月27日(火) 増田政史(文化財情報資料部)「中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察」
- 3月16日(金)「美術雑誌の情報共有に向けて」  
塩谷純(文化財情報資料部)「東京文化財研究所の美術雑誌—その収集と公開の歩み」  
大谷省吾(東京国立近代美術館)「『日刊美術通信』から見えてくる、もうひとつの昭和10年代アートシーン」  
森仁史(金沢美術工芸大学)「『美術』雑誌とは何か—その難しさと価値をめぐって」  
総合討論(橘川・塩谷・大谷・森)